

## ＜イトヨの生息調査を実施しました＞

平成26年10月20日

平成26年10月20日に北会津町の白山沼で、イトヨの生息調査を実施しました。

イトヨの生息調査は年2回、6月と10月に実施しており、今回は今年度2回目の調査となります。

白山沼に生息するイトヨは会津若松市の天然記念物に指定されており、沼自体も「白山沼のイトヨ生息地」として福島県の天然記念物に指定されています。

今回の調査により、白山沼のイトヨの生育状況はおおむね良好と判断されました。

調査結果を元に、今後もイトヨの生息環境と沼の環境の保全に努めます。

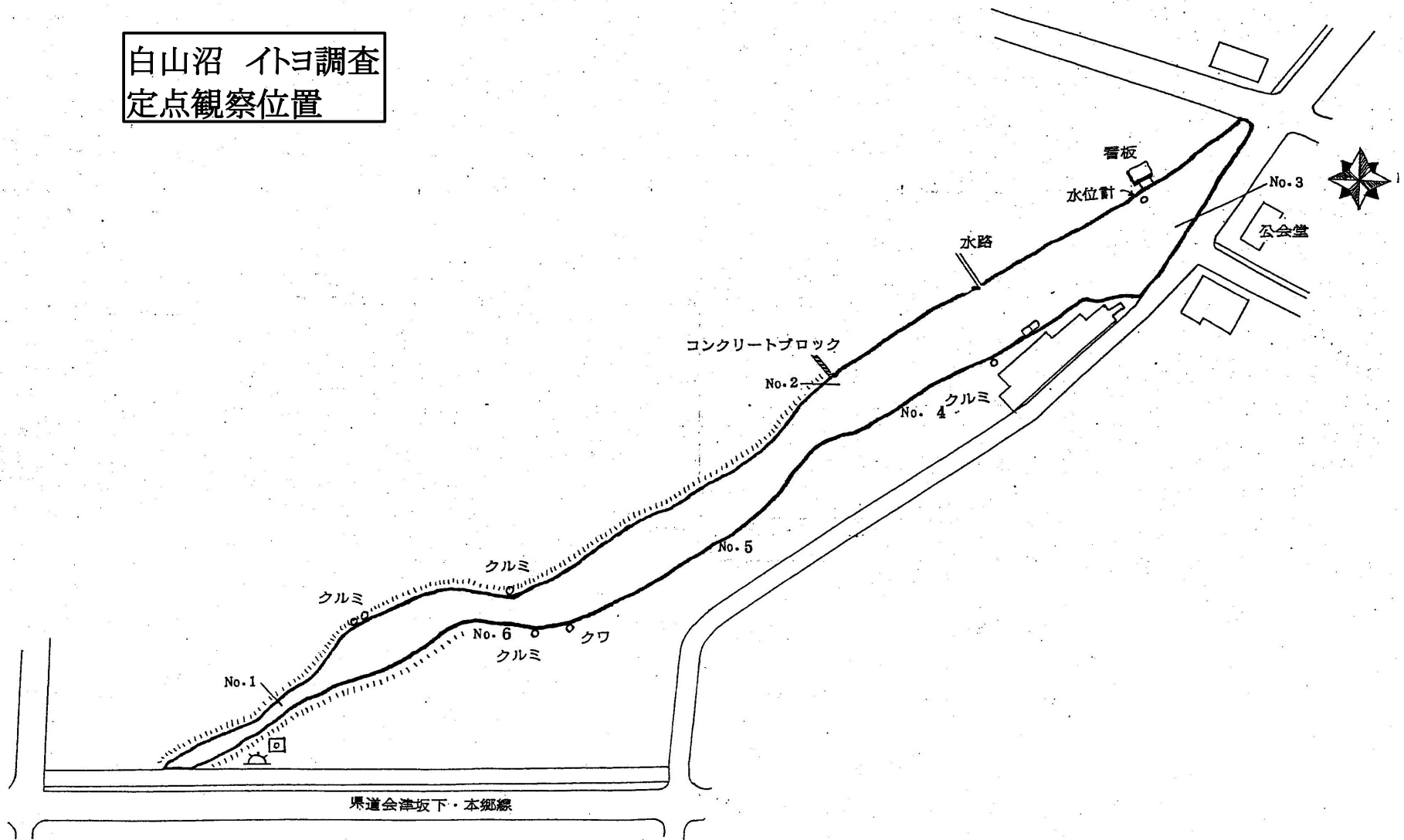
イトヨの生息環境を守るため、皆さんもご協力ください。

過去3年間の調査データを掲載しますので、あわせてご覧ください。

### 【調査(体長計測)の様子】



白山沼 イヨ調査  
定点観察位置



## 平成24年度

	第1回（平成24年6月28日）							第2回（平成24年10月18日）						
	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	平均	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	平均
水温（℃）	14.0	16.0	18.0	16.0	15.0	14.0	15.5	14.9	15.1	15.2	13.7	14.0	14.2	14.5
D O（m g / L）	5.2	14.5	15.3	13.5	13.1	8.6	11.7	8.7	11.8	11.7	11.3	11.4	10.8	10.9
採捕数	6	4	1(5)	2(2)	( 6)	( 11)	(合計)37 (セル瓶13 網24)	(13)	21	6	2	(11)	1(34)	(合計)88 (セル瓶30 網58)
営巣観察数	0							0						
特記事項（抜粋）	・枯死し、浮遊しているアオミドロの除去が望ましい。							・採捕数や体長組成から推測して、生息環境はおおむね良好。 ・アオミドロの枯死群体は堆積すると水質劣化をもたらすと考えられ、除去が望ましい。						

※採捕数については、セル瓶1個を1時間浸漬したときのもの。（ ）内は網の採捕数。

## 平成25年度

	第1回（平成25年6月26日）							第2回（平成25年10月18日）						
	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	平均	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	平均
水温（℃）	14.9	15.7	16.3	14.7	14.8	17.0	15.6	15.4	16.3	17.3	18.8	17.5	15.9	16.9
D O（m g / L）	8.5	9.3	9.8	9.4	8.7	7.8	8.9	9.1	11.7	10.5	11.5	12.5	10.2	10.9
採捕数	( 5)	1(2)	3	2	( 9)	( 5)	(合計)27 (セル瓶6 網21)	(17)	(29)	23	6	(65)	(53)	(合計)193 (セル瓶29 網164)
営巣観察数	1							0						
特記事項（抜粋）	・採捕尾数は少ないが、沼全域にみられる親魚、稚仔魚の数から推測して、生息数に大きな変化はないと思われる。 ・コイ、アブラハヤ、アメリカザリガニは駆除が望ましい。 ・アオミドロが沼全体に繁茂している。							・すくい網による採捕尾数が多く、例年になく生育は順調。ヨコエビ類など餌生物が多く見られたことも生き残りに関与したと考えられる。 ・アメリカザリガニの幼生を確認。 ・枯死したアオミドロが水面の一部に浮遊しているが、概ね良好な環境。						

※採捕数については、セル瓶1個を1時間浸漬したときのもの。（ ）内は網の採捕数。

## 平成26年度

	第1回（平成26年6月30日）							第2回（平成26年10月20日）						
	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	平均	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	平均
水温（℃）	15.8	16.0	17.2	16.2	18.2	17.0	16.7	14.8	16.0	15.5	15.8	15.9	15.8	15.6
D O（m g / L）	8.9	9.2	10.3	9.0	8.8	8.9	9.2	9.3	12.2	14.4	11.2	12.5	9.9	11.6
採捕数	0 ( 5)	0 ( 9)	1 ( 0)	0 ( 0)	0 ( 5)	0 ( 6)	(合計)26 (セル瓶1 網25)	0 (12)	0(22)	20 ( 0)	5 ( 0)	0(23)	0(18)	(合計)100 (セル瓶25 網75)
営巣観察数	0							0						
特記事項（抜粋）	・生息環境に大きな変化はみられないが、親魚に婚姻色が見られる一方で仔魚が極端に少なく、産卵時期が遅れているものと思われる。 ・沼の全域に繁茂する水草（フサモ類）は除去が望ましい。 ・有害な外来種であるアメリカザリガニの生息が見られた。							・イトヨの生息環境に大きな変化はない。 ・水中全域に繁茂する水草（フサモ等）やアオミドロは除去し、岸辺のヨシ類は稚魚の生育場となるため残すことが望ましい。 ・有害なアメリカザリガニの幼生が確認された。						

※採捕数については、セル瓶1個を1時間浸漬したときのもの。（ ）内は網の採捕数。